

発刊に当たって

「知識基盤社会」の時代においては、科学技術に関する世界的な競争が激化しており、我が国においても、次代を担う科学技術系人材の育成と同時に、国民一人ひとりの科学に関する基礎的素養の向上のため、科学技術の土台となる理数教育の充実を図ることが喫緊の課題となっています。

一方、日本の子どもたちの理科に対する関心は、これまでのPISA等の調査などから見ても、国際的に低い傾向にあることが明らかになっており、理科の授業においては、理科を学ぶことの意義や有用感を実感させ、科学への関心を高める工夫が求められています。

このような状況を背景に、平成20年の中教審答申に基づき、観察・実験や自然体験・科学的な体験及び探究的な学習活動の一層の充実を図るため、新しい理科の学習指導要領が、小学校と中学校ではすでに全面実施され、高等学校においては昨年度の入学生から年次進行で実施されているところです。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、この理科教育の充実のための取組として、新学習指導要領に対応した理科研修講座を実施するほか、若手教員や理科の学習指導等の充実に資する中核教員の育成を行うことを目的とした理科パワーアップ研修をはじめとする「理科RiSINGプロジェクト」を今年度から開始いたしました。さらに、自然の事物・現象に対する興味・関心や探究心を高める教材及び科学的思考力を育成するための学習プログラムを開発し、昨年度からは「地域の自然の特性を生かした教材を効果的に活用した問題解決的・探究的な学習プログラム」の研究を進めているところです。

本研究紀要は、平成25年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究並びに当センター職員の支援の下、フリープラン研修受講者が取り組んだ教材開発等の成果をまとめたものです。

最後になりましたが、本研究紀要が、各学校における教材研究や研修会、創意工夫を生かした理科の授業など、様々な場面で活用され、本道の理科教育の振興に広く役立てられることを願い、発刊に当たってのご挨拶と致します。

平成26年 3 月

北海道立教育研究所長

岸 豊